

「エコチル調査」認知度調査レポート

(平成 24 年 3 月実施)

1. 目的

環境省が企画・立案する「エコチル調査」に関する、認知度等を把握することを目的に Web アンケート調査を実施した。

2. 実施方法

- ・調査方法: Web アンケート調査
- ・調査期間: 平成 24 年 3 月 23 日(金)～平成 24 年 3 月 27 日(火)
- ・調査対象: 20 歳～69 歳の男女
- ・調査対象地域: エコチル調査対象地域(15 地域)＋東京都
- ・調査項目: エコチル調査(愛称)の認知度
調査の存在の認知度
認知媒体
エコチル調査のホームページのわかりやすさ
エコチル調査の重要性
エコチル調査への参加意向
イベント(催し物)への参加意向 等
- ・回収数: 3,200 人(200 人×16 地域)

3.結果

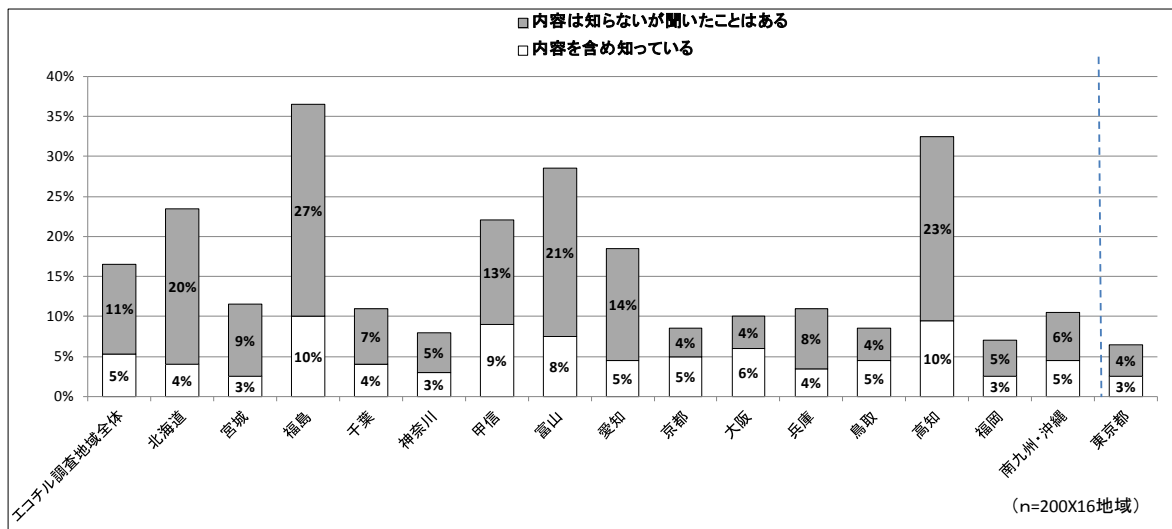
3.1 認知度(地域別)

エコチル調査地域において、愛称の認知度16%、調査の存在の認知度19%であった。

調査地域外である東京都においては、愛称の認知度7%、調査の存在の認知度12%であった。

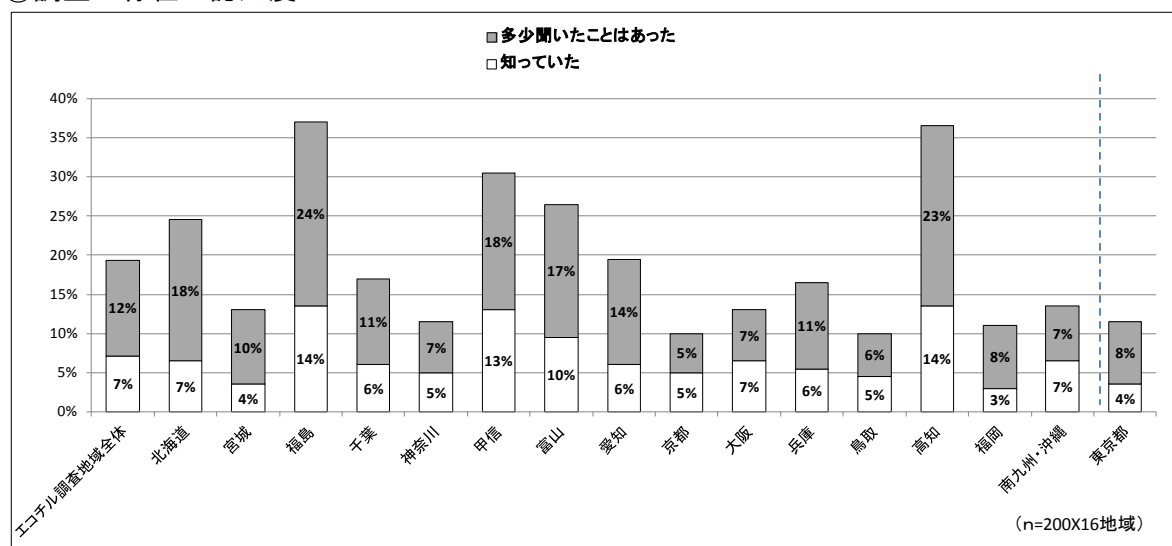
※東京都の結果は、全国規模のテレビや新聞でエコチル調査のことが報道されても、「エコチル調査」という名称を紹介されない事例が多かったことを反映していると考えられる。

①エコチル調査(愛称)の認知度



(Q1: あなたは、「エコチル調査」をご存知ですか。)

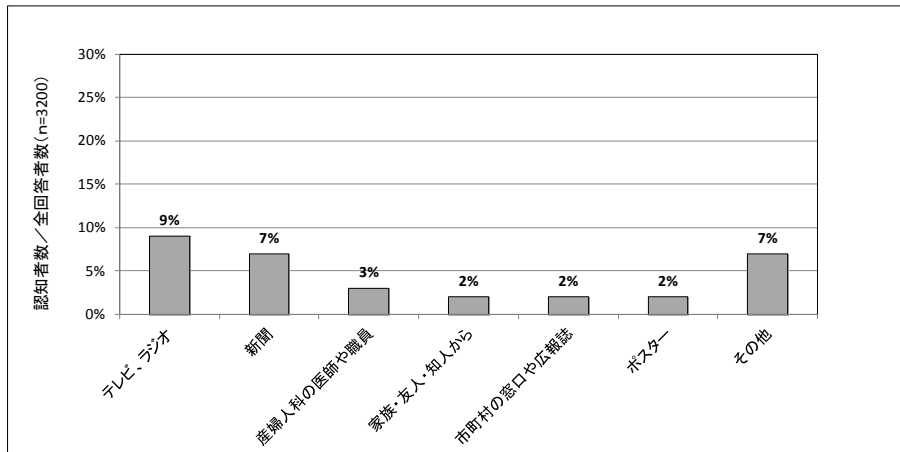
②調査の存在の認知度



(Q2: あなたは、環境省が、環境要因が子どもの健康に与える影響を明らかにするため、「全国 10 万組の家族の協力を得て、胎児期から 13 歳になるまで定期的に子どもの健康状態をチェックしていく全国調査」を行っていることをご存知でしたか。)

③認知媒体

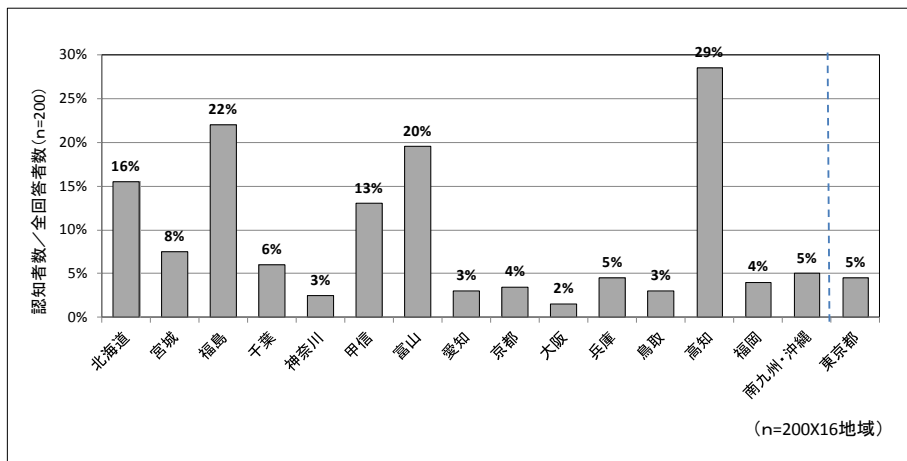
調査のことを知った媒体としては、「テレビ・ラジオ」が最も高率(9%)で、次いで「新聞」(7%)だった。



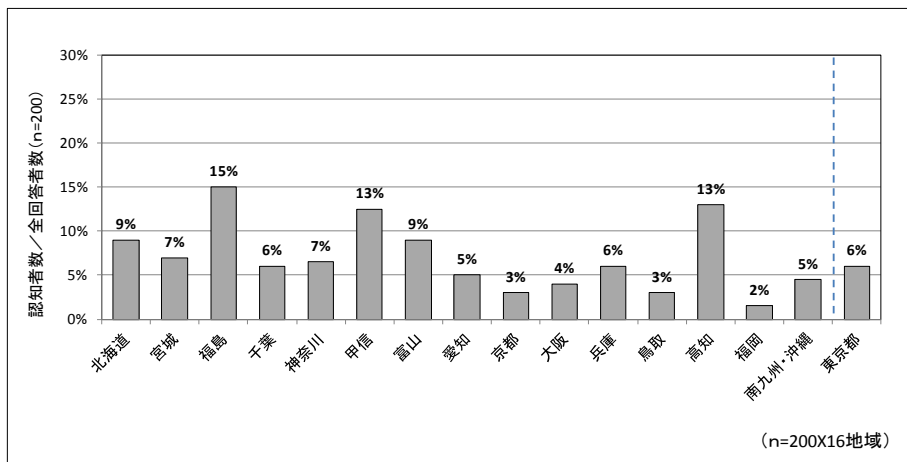
(Q3: どのような媒体で、調査のことを知りましたか。(いくつでも))

「テレビ・ラジオ」「新聞」の割合は、以下のように地域差が見られた。

③-a: 認知媒体が「テレビ・ラジオ」の割合 (調査地域別)



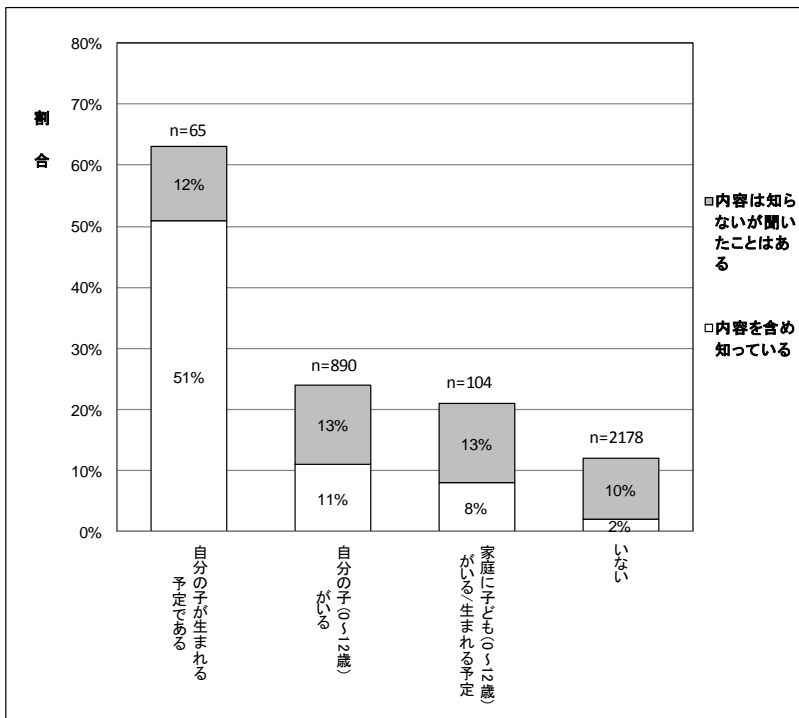
③-b: 認知媒体が「新聞」の割合 (調査地域別)



3.2 認知度(子どもの有無別)

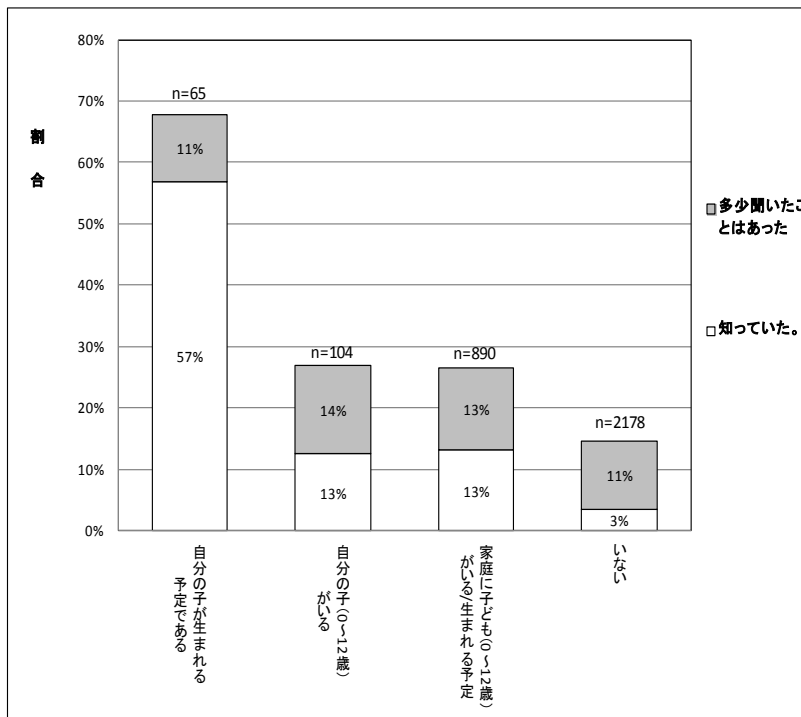
「自分の子が生まれる予定の人」では、愛称の認知度63%、調査の存在の認知度68%であった。

①エコチル調査(愛称)の認知度



(Q1:あなたは、「エコチル調査」をご存知ですか。)

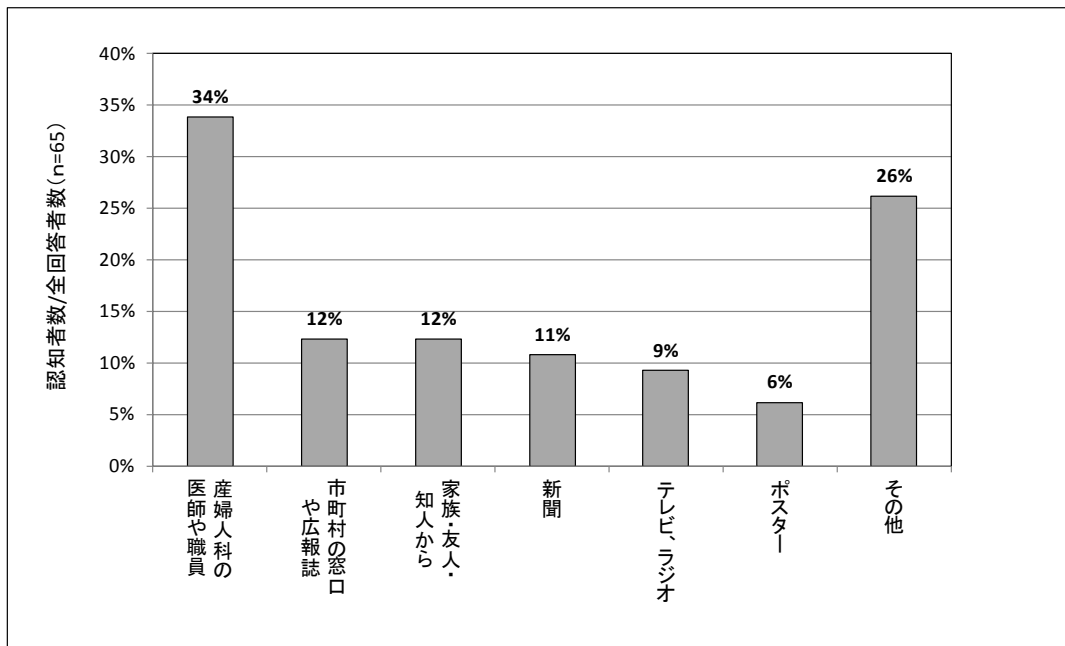
②調査内容の認知度



(Q2:あなたは、環境省が、環境要因が子どもの健康に与える影響を明らかにするため、「全国10万組の家族の協力を得て、胎児期から13歳になるまで定期的に子どもの健康状態をチェックしていく全国調査」を行っていることをご存知でしたか。)

③認知媒体(自分の子どもが生まれる予定の人に限定)

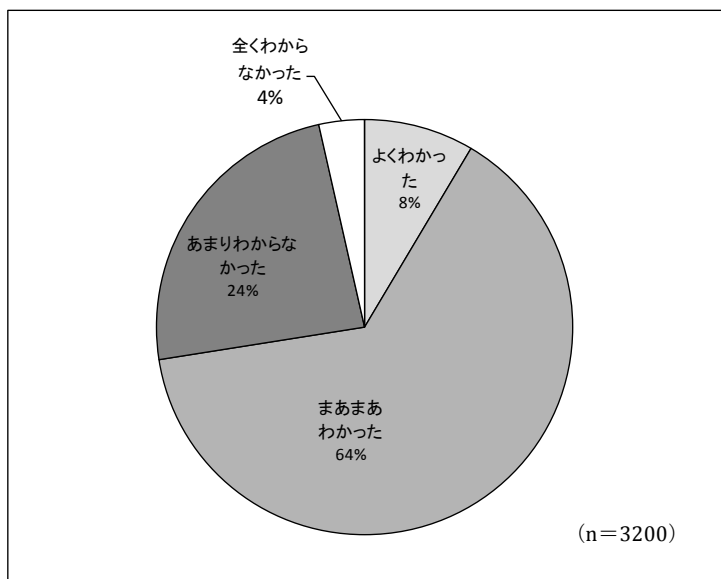
「自分の子どもが生まれる予定の人」では、「産婦人科の医師や職員」が最も高率(34%)で、「新聞」「テレビ・ラジオ」は10%程度であった。



(Q3.どのような媒体で、調査のことを知りましたか。(いくつでも))

3.3 環境省「エコチル調査」ホームページのわかりやすさ

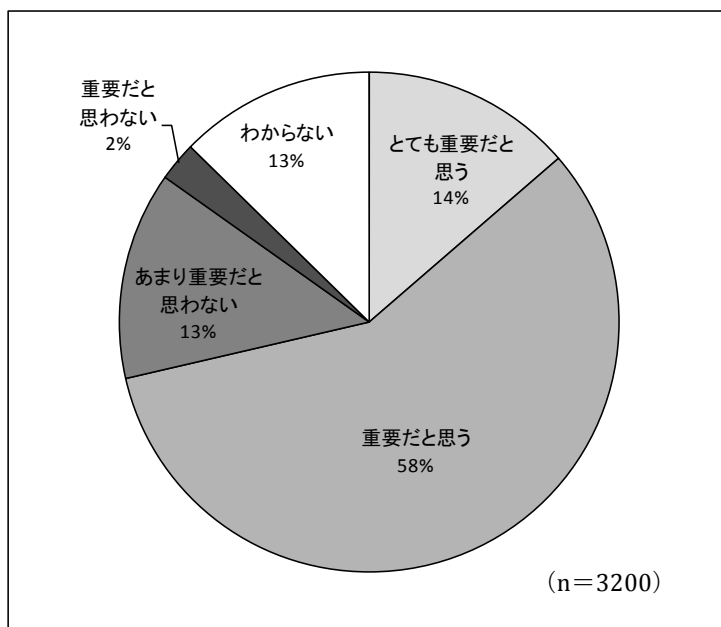
「よくわかった」「まあまあわかった」の割合は、合わせて72%であった。



(Q4: 環境省の「エコチル調査」のホームページを見て、調査の内容がわかりましたか。)

3.4 エコチル調査の重要性

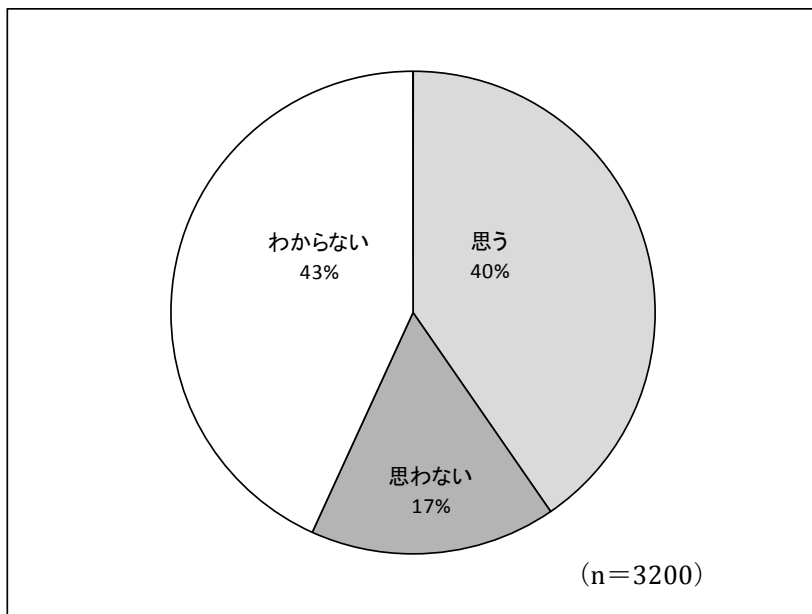
「とても重要」「重要」と思う人の割合は、合わせて72%であった。



(Q5: エコチル調査の重要性についてどう思いますか。)

3.5 エコチル調査への参加意向

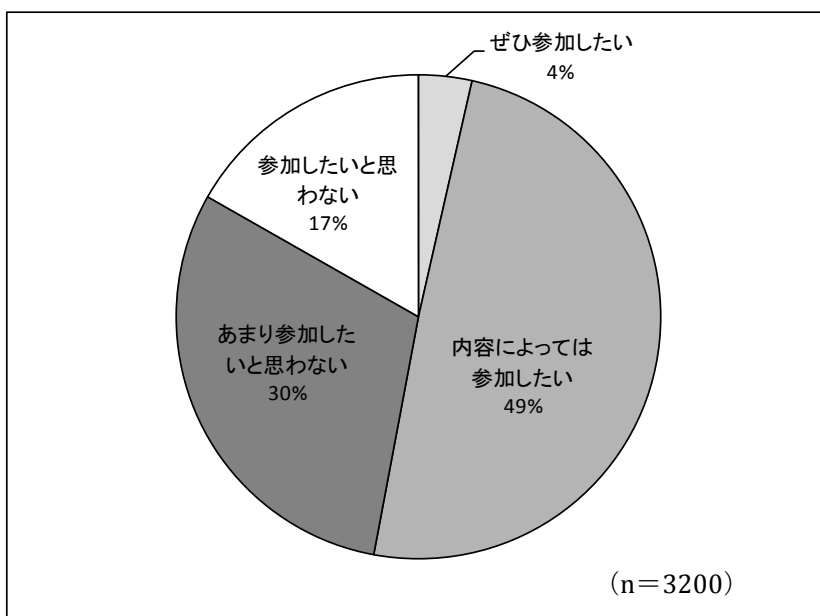
「わからない」が最も高率で43%、参加したいと思う人の割合は40%であった。



(Q6:もし、あなたがこれからお子さんを持つとしたら、エコチル調査に参加したいと思いますか。)

3.6 イベント(催し物)への参加意向

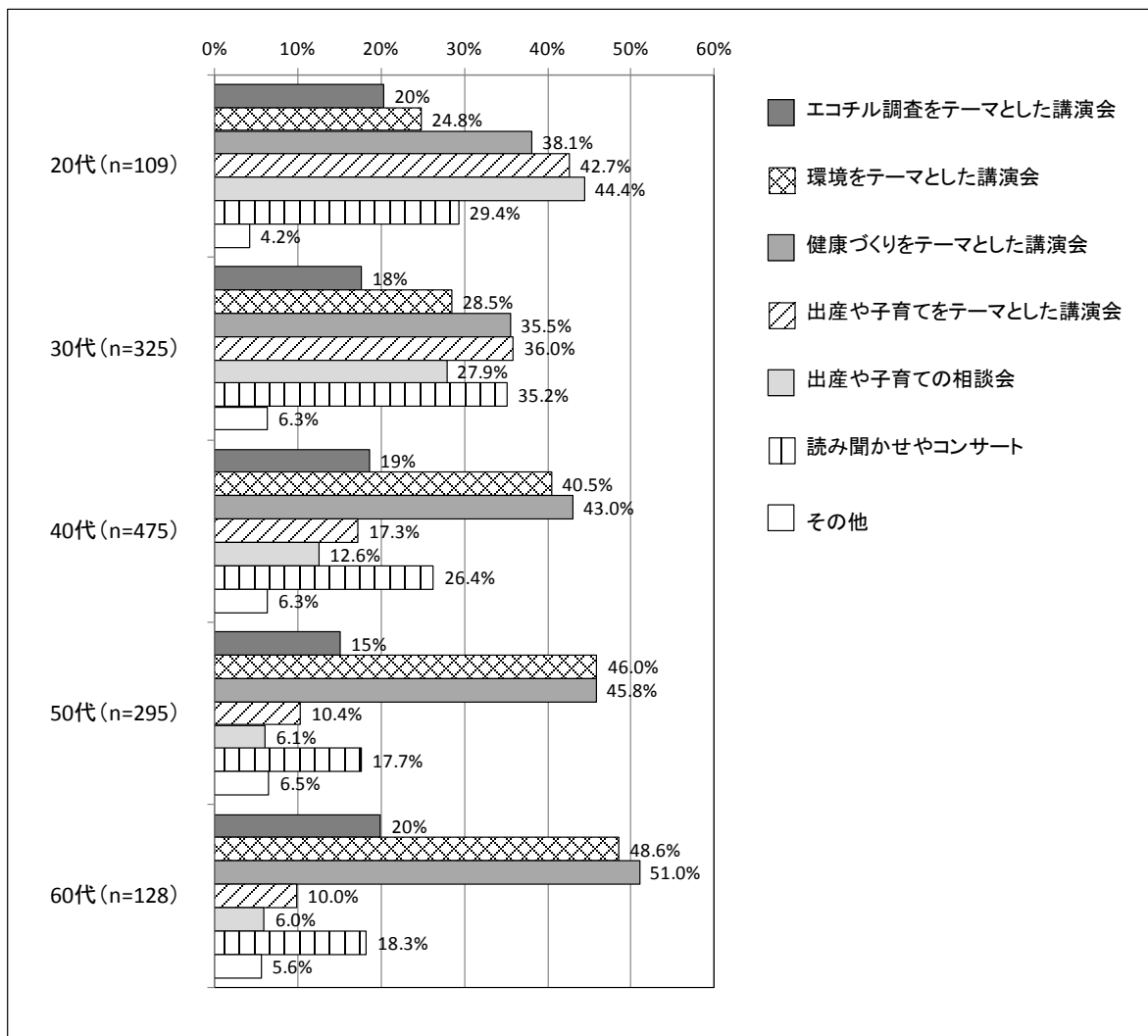
「内容によっては参加したい」という人が49%であった。



(Q7:エコチル調査では、子どもの健康と環境に関するシンポジウムなどの催し物を開催していますが、このような催し物に参加したいと思いますか。)

参加したいイベントは、年代によって、以下のように違いが見られた。

- 20代……「出産や子育ての相談会」が最も高率(44%)
- 30代……「出産や子育てをテーマとした講演会」が最も高率(36%)
- 40代……「健康づくりをテーマとした講演会」が最も高率(43%)
- 50代……「環境をテーマとした講演会」が最も高率(46%)
- 60代……「健康づくりをテーマとした講演会」が最も高率(51%)



(Q8:どのような催し物があれば参加したいと思いますか。(いくつでも))

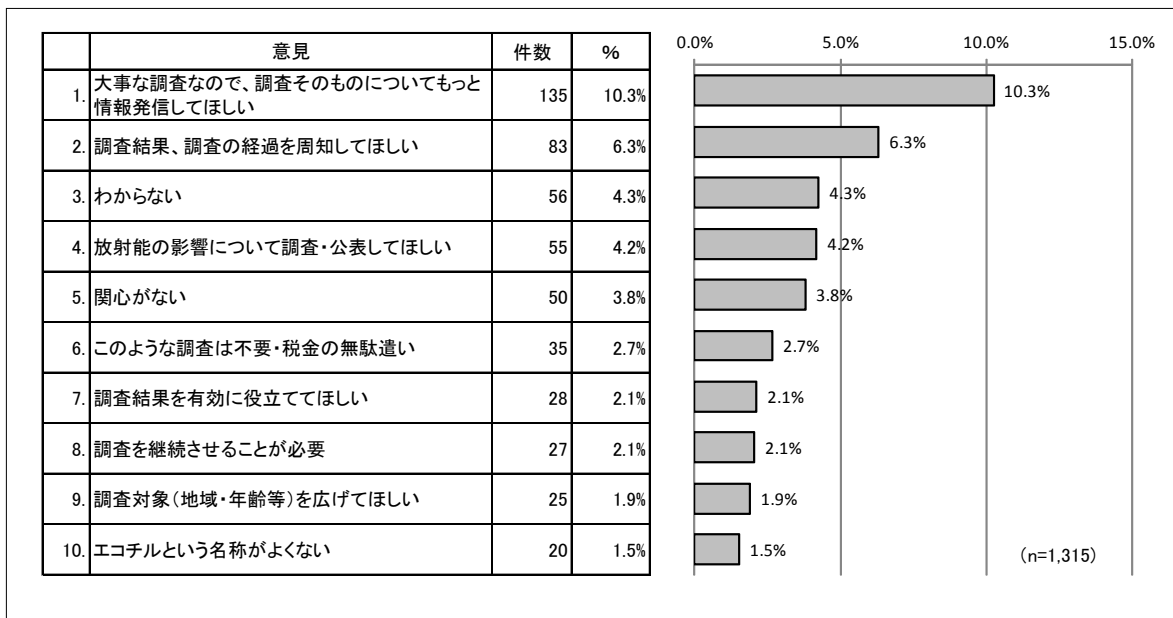
3.7 エコチル調査に対する意見(自由回答)

エコチル調査に対する意見の上位 10 位を以下に示す。

最も高率だったのは、「大事な調査なので、調査そのものについてもっと情報発信してほしい」(10%)であった。次いで、「調査結果、調査の経過を周知してほしい」(6%)であった。

※比率は、自由回答に記述した 1,315 人を母数とした割合。

なお、全回答者 3,200 人中、自由回答に記述した者 1,315 人(41%)、無回答者数 1,885 人(59%)。



(Q9: エコチル調査に対するご意見がありましたらお答えください。(ご自由にお書きください。))

4. まとめ

- エコチル調査地域においては、愛称の認知度16%、調査の存在の認知度19%であった。調査地域外である東京都においては、愛称の認知度7%、調査の存在の認知度は12%であった。
- 自分の子どもが生まれる予定の人に限定的場合、愛称の認知度は63%、調査の存在の認知度は68%であった。
- 地域別の認知度は、北海道、福島、甲信、富山、愛知、高知で高かった。
- 調査のことを知った媒体は、「テレビ・ラジオ」、「新聞」が上位2位であった。
- 自由回答形式でエコチル調査への意見を尋ねたところ、最も高率だったのは、「大事な調査なので、調査そのものについてもっと情報発信してほしい」(10%)であった。